
バカとテストと恋物語？

つりしん3

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとテストと恋物語？

【Nコード】

N6293Z

【作者名】

つりしん3

【あらすじ】

ある日、転校してきた二人の男と女、男の名は工藤修也。本来ならAクラス入り確実だったがめんどくさいと言ってテストを受けなかったため、Fクラスになった。

こいつらが織り成す恋の行方やいかに！？

※ムツリーニ×愛子、雄二×翔子、明久×姫路、美波×オリキヤラでいくつもり

オリキャラ設定☆

くどとう しゅうや
工藤 修也

容姿

顔はまあまあイケメン。髪は茶色がかった黒で、目は黒

性格

普段はテンション低め、アホっぽい

年齢

明久たちと同じ

クラス

Fクラス

身長

168cm

体重

50kg前後

得意教科

古典以外

苦手教科

古典

召喚獣

執事服の衣装で髪と目は本人と一緒に、武器は日本刀

備考

父が外人で母が日本人のハーフ、そのため髪が微妙な色、本人いわくコンプレックス。文月学園に転校してきた。その理由は単に面白そうだからという単純な理由。Fクラスになったのは、面倒だとい

ってテストをほっぽりだしたため。成績はAクラス並。姫路のことが好き。本作品の主人公。

桐谷 汐きりたにしおり

容姿

一言で言うとうと美少女。髪と目は茶色、

性格

普段からテンション高め、アホ毛がある、

年齢

明久たちと同じ

クラス

Fクラス

身長

150?

体重

40kg

得意教科

理数系

苦手教科

それ以外

召喚獣

メイド服の衣装で髪と目は本人と一緒に、武器は大型のピストル

備考

明久とは、いとこの関係である。修也とは幼馴染。髪がきれいな茶髪なため、中途半端な髪の修也をいじめている。文月学園に転校してきた。その理由はいじる対象がいなくなりたくなかったため、修也を追い転校してきた。Fクラスになったのは面白そうだからとい

う理由で名前を書かなかったため。成績はAクラス並。

第1問 転校生（前書き）

さっそくはじまりました。第1話、こんな小説を読んただきありがとうございます。

第1問 転校生

西村先生「えー、突然だがここでこのクラスに新しい仲間が増える。」

鉄じ・・・じゃなかった西村先生が衝撃的なことを言った。

FFF団「こんな微妙なときにか？」

「女だといいな」

明久「どんなひとなんですか？」

西村先生「九州から来たらしい」

九州かゝゝたしかあいつがいたのも九州だったはず・・・

FFF団「男ですか？女ですか？」

西村先生「両方だ」

FFF団「両方？おかまか？」

明久「ねえ、雄二。両方っておかまのこと？」

雄二「んなわけねえだろ。男一人と女一人以上ってことだ」

明久「さすが雄二、元神童なだけはあるね」

雄二「それくらい理解しろよ・・・」

雄二とそんな話をしていると転校生が入ってきた。

えっ、あれって・・・

汐「こんにちは九州から来ました。桐谷汐です。」

FFF団「美少女」

汐「ってあれ？アキくん？」

汐が僕の方を向く。ついでにFFF団のみんなも僕の方を向く。

雄二「明久、お前の知り合いか？」

明久「雄二、知り合いも何も僕と汐はいどこだもん。」

ヒュン

今僕の顔の横をカッターが通り過ぎたような・・・

FFF団「ちっ・・・はずしたか・・・」

雄二「いどこ？お前と桐谷がか？全く似てねえな・・・」

美波「そうよ、アキ。桐谷さんは美少女だけどアキはねえ・・・」

ひどいよ、美波・・・

汐「アキ君、久しぶりっ」

汐が僕に抱きついてきた。

ヒュンヒュンヒュンヒュンヒュンヒュンヒュン
すると、たくさんの刃物が飛んできた。

明久「畳替えし！！」

はぁゝ危ない。

西村先生「あーお前らもう一人いるんだが・・・」

あ、忘れてた・・・

西村先生「では、工藤、自己紹介してくれ」

修也「えー汐と同じ学校からやってきました。工藤修也です。前の

学校では汐と付き合っていました。」

付き合ってただってそれは・・・

死刑宣告だ・・・

どうせ僕も追われるんだ・・・

工藤さんに教えてあげなきゃ・・・

明久「工藤君・・・」

修也「ん？」

明久「今、付き合ってたっていったよね・・・」

修也「ああ」

明久「それは・・・」

修也「それは？」

明久「死を受け入れてるようなもんだ!!」

修也「えっ!？」

FFF団「Let's party!!!」

僕たちのほうに刃物が飛んてくる。

まずい、これは逃げなきゃ・・・

明久「逃げるよ。工藤君。」

修也「あ? うん、分かった。」

秀吉「また始まったのう」

雄二「ああ、そうだな」

そんな秀吉たちの声を聞いたところで僕たちは屋上に逃げた。
あぶないよ・・・

明久side out

修也side in

明久「大丈夫？工藤君？」

修也「ああ大丈夫だ。さっきはありがとな。」

明久「さっき？」

修也「死の宣告を教えてください」

明久「あああれねいつものことだから・・・」

いつものことなのか・・・

そんなこんなでこの日は終わった・・・

第1問 転校生（後書き）

どうでしたか？第一話、はじめてなのでダメだしなどがあつたら入ってください。

次はみんなの自己紹介です。

第2問 召喚獣と試験召喚戦争（前書き）

修也「おれはこんな学校にきてよかったのか・・・？」

P・S・面倒なのでセリフの前の人名はこうします。

明久↓明 雄二↓雄 美波↓美 姫路↓姫 秀吉↓秀 ムツツリ

ニ↓ム

修也↓修 汐↓汐 美春↓清 久保↓久 愛子↓愛 優子↓優

翔子↓翔 鉄人↓鉄 葉月↓葉

などそんな感じです。

第2問 召喚獣と試験召喚戦争

次の日の朝おれが学校に行くと馬鹿がいた。もとい、Fクラスの面々がいた。

明「修也、今僕たちのことバカにしたよね？」

こいつは人の心が読めるのか？

修「ああ、そうだが。」

雄「当たり前だろ、おれ達は最低のFクラスだぞ。バカなのは当然だ。」

こいつはクラス代表らしい。

明「ところで、修也はみんなに自己紹介してないよね。」

修「ああたしかにそうだな。」

明「おうい、みんなく修也が挨拶したいって。」

ま、おれはそんなこといってないけど……

明「みんな、まずは自己紹介して。」

雄「おれは坂本雄二よろしくな。呼び方は代表でも雄二でもなんでもいい。」

秀「わしは木下秀吉じゃ。言うておくがわしはれっきとした男じゃ。」

男？こいつが？どう見ても女だろ？

瑞「私は姫路瑞希です。趣味は料理です♪」

それを聞いた瞬間、男たちが顔を引きつらせた。気がした……ま、気のせいかな……

美「ウチは島田美波、ドイツからの帰国子女よ。趣味は……」

可愛い女の子だと思った。が、次の瞬間おれからその感情は消えうせた。

美「吉井明久を殴ることです☆」

修「それはどういうこと？」

美「みせてあげるか？」

すると、島田は指をボキボキ鳴らし始めた。

明「や、やめてよ。美波。」

修「もういいです。」

美「そう？楽しみだったのに……」

これ以上は明久がかわいそうなので止めておいた……てか、楽しみにすんなよ……

明「次はムツツリーニだね。」

修「ムツツリーニって？外国人？」

明「ムツツリーニっていうのは愛称で本名は……」

ム「……土屋康太……」

ま、みんなムツツリーニっていつてるしムツツリーニでいいや。

えーと、坂本と木下と島田さんと姫路さんとムツツリーニか……
あ、あと明久……忘れてた……
すると、雄二が変なことを言い出した。

雄「今、おれたちはAクラスに試召戦争を仕掛けてるんだ。」

修「試召戦争？なんだそれ？」

明「あ、そうか修也は知らないんだもんね。」

雄「試召戦争は召喚獣で戦う戦争だ。」

修「召喚獣？」

もうなんのことだか分からん……

雄「試召戦争ってのは他のクラスと召喚獣で戦って勝ったらこのボロ設備と他のクラスの設備と交換することだ。で召喚獣ってのがその戦いに使う自分の化身みたいなものだ。」

へえー

明「で召喚獣の強さは点数で決まる。」

修「へえー点数でってFクラスって一番不利じゃん！」

なのにこいつらは戦争を仕掛けたって言うのかよ……

修「勝算はあるのか？坂本……」

雄「おれのことば雄二でいい。あああるともこつちには姫路がいるからな……」

姫路？姫路がどうしたんだろう？

第2問 召喚獣と試験召喚戦争（後書き）

ここまでになります。長いと読者の皆さんも疲れると思うので・・・

第3問 試召戦争勃発!!! (前書き)

第2問の続きです。

修「姫路がどうかしたのか？」

第3問 試召戦争勃発!!!!

雄「姫路はAクラス並の成績だからな。」

修「へえゝってなんでこんなところにAクラス並の奴がいるんだよ。」

Aクラス並だって？

明「姫路さんは途中退席で0点なんだゝ」

雄「で、決戦は今日の午後だ。」

修「へえゝって後30分しかないよ!？」

こいつらそれなのにこんなに余裕でいいのか？

雄「試合形式は5対5で3ゲーム先にとったほうの勝ちだ。」

秀「わしらは勝てるか心配じゃのゝ」

瑞「大丈夫ですよ、私たちなら勝てますよ」

――――数時間後――――

高「それではこれからAクラス対Fクラスの試験召喚戦争を行います。1人目は前に・・・」

秀「では、わしが行こうかのゝ」

優「じゃあ私が行くわ・・・」

彼女は明久曰く秀吉のお姉さんらしい・・・

優「ちょっと秀吉来なさい。」

秀吉が連れてかれた・・・

数分後、秀吉は戦えないほどボロボロになっていた・・・
なので、代わりに明久が出ることになった。

ああ、負けたな・・・この試合・・・

優「だれでもいいわ。教科は現国で・・・」

高「承認します。」

優・明『試獣^{サモン}召喚』

Aクラス 木下優子 現国 367点

vs

Fクラス 吉井明久 現国 ??点

明久の点って何点だろ・・・

Fクラス 吉井明久 現国 76点

勝負は一瞬でついた・・・

高「勝者 Aクラス 木下優子」

明「ごめん、勝てなかった・・・」

雄「大丈夫だ、お前に期待は最初からしてない。」

ま、そりゃそうだろ・・・

明「ひどいよ、雄二!!」

こうして1回戦はAクラスの勝利で終わった・・・

第3問 試召戦争勃発!!! (後書き)

汐「私の出番あるかしら・・・」

第4問 2回戦（前書き）

Aクラスとの戦い、2回戦です。

ム「おれがいく・・・」

第4問 2回戦

修也 side

バカもとい明久が負けたせいで1回戦がAクラスの勝利で終わり、2回戦が始まった・・・

明「ねえ雄2回戦は誰が出るの？」

雄「ここではムツツリーニに出てもらう。」

なんでムツツリーニを出すんだろう？

高「両者、前に。」

すると、ムツツリーニが出た。

愛「それならボクがいこうかな♪」

かなりの美少女だった。

高「では、始めてください。」

愛・ム『試獣^{サモン}召喚』

愛「ムツツリーニ君だっけ？ボクの名は工藤愛子。特技はパンチラで得意科目は保健体育だよ。しかも君とは違って実技でね☆」

ブシャアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア

この音ってなんだろう？

みてみるとムツツリーニが血に染まっていた・・・

ああ興奮して出したのか・・・

男としてはロマンだよな・・・

いいな〜ムツツリーニは素直で・・・

明「工藤さんって可愛いし・・・って腕がちぎれるように痛い!!」

あっちは島田に処刑されるし・・・

気の毒にな〜

あ、戦ってたんだ・・・

Aクラス 工藤愛子 保健体育 476点

vs

Fクラス 土屋康太 保健体育 ???点

400点オーバー?高すぎだろ・・・

ムツツリーニ勝てるか?この試合・・・

ムツツリーニの点は・・・

Fクラス 土屋康太 保健体育 526点

500点オーバー?やっぱりエロの帝王は違うな・・・

ム「・・・・・・・・加速。」

高「勝者、Fクラス 土屋康太。」

愛「あーあ、負けちゃったね〜」

ム「・・・・・・・・おまえはおれのライバル・・・・・・・・おれに勝つまで誰にも負けるな・・・・・・・・」

愛「・・・・・・・・うんっ☆」

ムツツリーニが恋愛マンガのような恥ずかしいセリフを言って勝った・・・

これで1対1だ・・・

2回戦はFクラスの勝利で終わった・・・

第4問 2回戦（後書き）

次は3回戦です。

汐「わたしの出番・・・」

第5問 3回戦（前書き）

3回戦です。

雄「これで1対1か・・・」

第5問 3回戦

明久 side

ムツツリーニの活躍で1対1で3回戦が始まった・・・

高「両者、前に。」

久「じゃあ僕が行こう。」

出てきたのは学年主席の久保君だった。

雄「じゃあ修也いけ・・・」

明「なんで転校してきたばかりの修也を出すの？」

雄「まあ見てろって。」

雄二のことだ、なにか作戦があるんだろう・・・

高「教科は何にしますか？」

久「総合で・・・」

久・修『試獣^{サモン}召喚』

Aクラス 久保利光 総合 3902点

Fクラス 工藤修也 総合 ???点

もうちょっとで4000点ってバカげた点だな・・・
修也の点は・・・

Fクラス 工藤修也 総合 4500点

450点？少ないな〜ってあれ？0が二つ？4500点？

A『なんであんなのがFクラスにいるんだ？』

明「雄二なに？あの点数？」

雄「あれが修也の実力だ・・・」

瑞「すごいですね・・・私でも4200点なのに・・・」

いいや、4200点でも十分すごいって・・・

久「でも、操作に慣れてない君には負けないよっ！」

修「へえ〜こうやって動かすのか・・・おらっ」

あっ

Aクラス 久保利光 0点

高「勝者、Fクラス 工藤修也。」

F『やったーーーーー』

明「すごいよ、修也。」

修「ありがとな明久・・・」

まさか、勝てるなんてこれでAクラスにリーチだ・・・

秀「すごいで修也よ・・・」

瑞「すごいです！！」

美「すごいわね。」

これで2対1リーチだ！！！！

第5問 3回戦（後書き）

次は4回戦です。

汐「私の出番？」

作「はい、そうです。」

汐「やったー」

第6問 4回戦（前書き）

4回戦です。

汐「ついに私の出番ね〜」

第6問 4回戦

修也 side

おれ様の素晴らしい活躍により、2対1のリーチになり、4回戦が始まった・・・

高「両者、前に。」

佐「私が行きます。」

出てきたのは頭のいい人だった・・・
って明久が言っていた。

でもAクラスなんだから頭がいいのは当たり前だろ・・・

雄「じゃあ汐行ってこい。」

汐「へ？私？瑞希ちゃんは？」

雄「姫路は今回出さない・・・」

F『えーーーーーーー』

明「なんで？雄二？」

雄「さっき汐に殺されかけて・・・」

明「あとは言わなくていい・・・」

ああ、汐のことだ・・・

雄二を脅したに違い無い・・・

いとこの明久だから分かるんだろう・・・

高「教科は何にしますか？」

汐「数学で・・・」

佐・汐「試獣召喚^{サモン}」

Aクラス 佐藤美穂 数学 365点

V S

Fクラス 桐谷 汐 数学 350点

350点か・・・まあ汐ならそれくらい楽勝だよな・・・
でも明久たちは驚いてるな・・・ま、無理もないか・・・
汐結構、頭いいしな・・・

雄「ちっ・・・Aクラスには及ばなかったか・・・」

数分後

高「勝者Aクラス 佐藤美穂。」

まあ初心者だから勝てないのも無理はないか・・・↑初心者なのに
勝った人

これで2対2で同点か・・・

次は雄二・・・

勝てるか？雄二？

第6問 4回戦（後書き）

次はAクラス戦の最後です。

修「勝てるか？雄二？」

第7問 最終決戦（前書き）

最後でゝす

雄「ついにおれ達の机がシステムデスクに・・・」

第7問 最終決戦

明久 side

ムツツリーニや修也の活躍で僕たちはAクラスと2対2で同点になった。ここで勝てばFクラスの机はシステムデスクになる・・・

高「両者、前に。」

Fクラスからは雄二がAクラスからは代表の霧島さんが出てきた。霧島さんって確か女の子が好きなんだよね・・・

高「教科は何にしますか？」

雄「教科は日本史、内容は小学生レベルで方式は百点満点の上限ありだ！」

A「上限ありだって？」

『しかも小学生レベル。満点確実じゃないか』

『注意力と集中力の勝負になるぞ・・・』

小学生レベルっていくら雄二でもこれは満点確実でしょ・・・

明「なんでそんなに細かいの？」

雄「あいつは一度覚えたことは忘れない・・・逆にそれを利用するんだ・・・」

一度覚えたことを忘れないなら不利じゃないのかな？

雄「ある問題が出たらおれ達は勝ったも同然だ。」

秀「ある問題ってなんじゃ？」

雄「その問題は太化の改新だ。」

美「太化の改新？」

雄「そうだ、おれは昔、太化の改新を625年と教えたんだ。」

明「え？太化の改新って625年じゃないの？」

雄「バカか、お前は無事故の改新で645年だろ・・・」

高「ではテストを行います。」

雄二たちは別室でテストを受けることになり出て行った。
みんなが固唾を吞んでディスプレイに写る問題を見ていた。

《次の（ ）に正しい年号を記入しなさい。》

（ ）年、平城京に遷都

（ ）年、平安京に遷都

小学生レベルの問題いくら雄二でも説けるよね〜
あれ、どっちが794年だっけ？

（ ）年、鎌倉幕府設立

（ ）年、太化の改新

出た・・・

瑞「よ、吉井君っ・・・」

明「うんっ」

瑞「これで私たちの机が・・・」

F『システムデスクに！！！！うおおおおおおおお』

《日本史勝負 限定テスト 100点満点》

《Aクラス 霧島翔子 97点》

V S

《Fクラス 坂本雄二

53点》

Fクラスの卓袱台がみかん箱になった・・・

第7問 最終決戦（後書き）

次は自分で考えたテーマのなにか（未定）です。

明「ゆうーーーーーううーーーーーじいーーーーー」

第8問 合宿に行こう! (前書き)

合宿(?) に行く話

汐 「合宿行くわよ!」

明 「合宿?」

汐 「そう、合宿!」

第8問 合宿に行こう！

修也 side

バカ野郎もとい雄二のせいでFクラスのみかん箱になった教室での出来事・・・

汐「ねえねえみんな、みんなで合宿しない？」

明・雄・瑞・美・ム・秀・修『合宿？』

汐「そう、合宿。私と修也のこと、みんなはよく知らないでしょ？だから合宿をするのよ！！」

明「僕はいいよ。」

雄「おれもいいぞ。」

瑞「私もいいです。」

美「ウチもいいわよ。」

島田も普通に可愛いものになっ

ム「・・・俺も行く。」

秀「わしもいこうかのう。」

修「みんなが行くなら俺も行くぜ。」

ということで合宿することになった。でも合宿どこでするんだ？

明「どこでやるの？」

汐「うーん、アキ君の家あたりでいいんじゃない？」

明「家？別にいいけど・・・」

雄「なら決定だ。姫路も明久の家行ってみたいよな？」

瑞「ふえっ！？あ、はい・・・」

明「で、いついくの？」

汐「うーん、今日かな？」

明・雄・瑞・美・ム・秀・修『今日なの（なのか）（ですか）（なの）
（かの）？』

汐「そう今日よ！」

今日っていきなりすぎだろ・・・

明「それってあれ？思い立ったが切実だっけ？」

明久よ、それは吉日だ・・・といおうと思ったとき

秀「明久よ・・・それを言うなら吉日じゃ・・・」

先にツッコまれた・・・このおれが・・・

汐「まあそんなところよ・・・」

明「みんな、いい？」

雄・瑞・美・ム・秀・修『いい（ぞ）（ですよ）（わ）（・・・）
（のじゃ）』

明「じゃあ帰ったら午後4時に校門で集合ね。」

明・雄・瑞・美・ム・秀・修・汐『わか（った）（りました）（っ
たわ）（ったのじゃ）』

放課後

明久SIDE

明「みんないる？」

雄「いるぞ。」

明「雄二なんで霧島さんと工藤さんがいるの？」

雄「翔子はおれが誘った。工藤はムツツリーニがいるからだそうだし．．．」

明「なんで霧島さん誘ったの？ついに霧島さんのことが？」

雄「断じて違う。明久よ、この合宿に翔子を誘わなかったらどうなると思う？」

明「ごめん。」

雄「分かればいい．．．」

こうして僕たちは僕の家に向かった．．．

第8問 合宿に行こう! (後書き)

合宿(?) でした。

汐「アキ君の家久しぶりだな」

第9問 合宿？（前書き）

明「僕のうちに合宿・・・」

第9問 合宿？

明久 side

しばらく歩くと僕のうちに着いた。

雄「ここが明久の家か・・・」

翔「・・・・・・・・・・ここが雄二との愛の家。」

一体霧島さんは家で何をするつもりなんだろう・・・

明「ただいま」

雄・瑞・美・修・汐・ム・秀『おじゃまします。』

明「どうぞ、ごゆっくりと・・・でみんなは何日泊まるの？」

汐「私は3泊4日。」

汐がそういうとみんなもそうすると言ってきた。

愛「でなにをするの？」

確かに工藤さんの言うとおりだ・・・

何をするかなんてろくに決まってない・・・

雄「そうだな・・・まず食料調達でもするか・・・どうせ、明久のうちの冷蔵庫には何も無いんだろ・・・」

明「失礼な！」

瑞「じゃあ何が入ってるんですか？」

明「えーつと・・・醤油・・・」

雄・瑞・美・修・汐・ム・秀『・・・』

僕の言葉にみんながシーンとした・・・

なんで？

雄「やっぱりな・・・じゃあ買出しは誰が行く？」

愛「はいはいボクがいくよ。ムツツリーニ君もいこつ。」

ムツツリーニが工藤さんに誘われてる・・・よし合宿が終わったら
コ・ロ・ソ・ウ。

雄「じゃあ後は島田と修也に行ってもらおう。」

修・美「えっ!？」

なんでだろう？

雄「でおれ達は・・・何かしとく・・・」

何って何だろう？

ということ僕たちは家に残ることになった。

愛「じゃあ行ってくるよ」

そういうと4人は出て行った。

明「で、なにをするの？雄二？」

雄「何がしたい翔子？」

翔「・・・雄二との結婚。」

汐「私はアキ君との熱いキス」

霧島さんと汐の衝撃的な発言に僕と雄二は悶絶した・・・

明「そういうことじゃなくて・・・」

雄「今何がしたいかだよ・・・」

翔「・・・・・・・・私は今雄二と結婚したい。」

汐「私も今アキ君とキスがしたい。」

この人たちは・・・

雄二はそれを無視して、話を進めた。

雄「どうせ、暇だ。なんかして遊んでよう。」

暇ってあの4人に買出しに行かせたのに？

ということで遊ぶことにした・・・

第9問 合宿？（後書き）

えーと遊びの内容がまだ決まっていなかったのでこれからへんで・・・

第10問 合宿？（前書き）

合宿？です。

修「二人を仲良く・・・（ニヤニヤ）」

第10問 合宿？

修也 side

雄二たちに行つて来いといわれて仕方なく買出しに出かけた・・・
ムツツリーニと工藤はたぶん両想いだな・・・
よし、二人にチャンスをやろう。

修「いきたい店が二つあるから二手に分かれよう・・・」

愛「えっ？別にいいけど・・・チームわけは？」

修「チームわけはおれと島田、ムツツリーニと工藤だ。」

それにしてもおれも工藤なのに工藤って分かりづらいな・・・
そんなことより二人きりにしてやるんだ・・・

愛「ボクはいいけど・・・ムツツリーニ君は？」

ム「…………別にかまわない。」

ということで二手に分かれることにした・・・

修「で、どこにいく？島田？」

美「え？決めてなかったの？」

修「まあ・・・」

あれは二人きりにさせるための作戦だしな・・・

美「じゃあ、魚屋さんでもいく？」

修「そうだな。」

んで、おれと島田は魚屋に行くことにした。

魚屋にはいろんな魚が売っており大変混んでいた。

修「じゃあおれなんか買ってくるわ・・・何がいい？」

美「じゃあマグロかな？」

おれはマグロを求めて人ごみを掻き分けていった。

修「おっさん、これくれ！」

おっさん「はいよ。」

おれはマグロをゲットして島田の所に向かった。

修「島田、ゲットしたぞ・・・」

次の瞬間・・・

第10問 合宿？（後書き）

どうなるのか？

第11問 合宿？（前書き）

次の瞬間・・・

汐「何が起こったのかしら？」
作「この後を見てください。」

第11問 合宿？

修也 side

次の瞬間・・・

おれは人ごみに押されて島田のほうに倒れ込んだ。

修「わっ！」

美「キャッ！」

結果として俺は島田を押し倒した・・・
すると、俺と島田の唇が重なった。

まあ簡潔に言っていると俺と島田はキスをした・・・

修「・・・んっ／／／／」

美「・・・っ／／／／」

やばっ・・・おれのファーストキス・・・

美「な、なにすんのよ！」

修「それはこっちの台詞だ！」

美「・・・」

修「・・・」

しばらく恥ずかしさのあまり沈黙してしまうおれ達・・・

修「・・・マグロも手に入れたし帰るか・・・」

美「・・・うん。」

沈黙が続きおれ達は一言も喋らずに明久の家に帰っていった・・・

第11問 合宿？（後書き）

次は工藤sideでお送りします。

修「島田・・・」

第12問 合宿？（前書き）

工藤 side です。

工藤「どうしよう・・・」

第12問 合宿？

愛子 side

どうしよう・・・ムツツリー二君と二人つきりだ・・・

愛「・・・どうする？」

ム「・・・ちよつとよつて欲しいところがある。」

えっ・・・それってボクにデートを誘ってるの？な、わけないか・・・

・

愛「で、どこいくの？」

ム「・・・いきつけのカメラショップ。」

愛「ボクも買いたいカメラがあるんだよね〜良かったらいいカメラ見つけてくれない？」

これできっかけをつかんで・・・

ム「・・・かまわない。」

やったりこれでデートが出来る・・・

ボクたちはカメラのキ○ムラに行くことにした。

ム「・・・ついた。」

おっさん「お、康太じゃねえか。今日は彼女連れか？」

ム「・・・そんなじゃない／＼／」

照れてるな〜ムツツリー二君・・・

それってボクを意識してるってことかな？

ム「・・・・・・・・どんなカメラが欲しい？」

愛「水泳部で使えるような防水カメラかな？」

ム「・・・・・・・・それならこれとこれ。」

結局ムツツリーニ君が見せてくれたのを買うことにした。

愛「ありがとう、ムツツリーニ君！じゃあ次どこいく？」

ム「・・・・・・・・まだ、よって欲しい所がある。」

愛「へえ、どこ？」

ム「・・・・・・・・いいから付いて来い。」

ムツツリーニ君に連れられてきたのはすつつつごく高そうな宝石店だった。

愛「何でこんなところに？」

まさか、恋人にあげるとかかなくそうだったらやだな

ム「・・・・・・・・ちょっと待ってろ。」

愛「えっ・・・・・・・・うん・・・・」

そういうとムツツリーニ君は指輪を買ってボクの所に来た。

ム「・・・・・・・・これお前に・・・・今日のお礼・・・・」

愛「えっ！？ボクに？ありがとう・・・・でもうそろそろお前とかさ工藤愛子とかやめてさって呼んでよ・・・・ボクは康太君って呼ぶから・・・・」

ム「・・・・・・・・分かった・・・・愛子・・・・／／／」

愛「ありがとう康太君！じゃあ帰ろうか！」
ム「・・・・・・・・分かった・・・・・・・・」

特に何もしなかったけどボクはすっごく楽しかった。

第12問 合宿？（後書き）

次は明久たちです。

第13問 合宿？（前書き）

明久たちの話です。

第13問 合宿？

明久side

4人を追い出して遊ぶことにした・・・

秀吉と姫路さんは料理を作ってるらしい・・・
最悪だ・・・

明「なにをするの？」

雄「そうだな・・・じゃあ明久の好きな人は姫路として・・・塩は誰が好きなんだ？」

明「ちよっと待ってよ雄二それどこ！？」

雄「だって、お前の好きな奴は姫路だろ？」

明「ち、ちがうよ・・・」

雄「まあどーでもいい。で汐の好きな人は誰だ？」

汐「私？私の好きな人はアキ君だよ？」

そうだとは思ってたけど・・・

雄「なんだかつまんねーな。なんかしたいか？翔子。」

翔「雄二との結婚もしくは熱いキス・・・」

ダッ

雄二はそのとこを聞いて走り出した・・・

翔「逃げるのは許さない・・・」

霧島さんも走り出した・・・

そんなことをしているとあの4人が帰ってきた。
ん？なんか、みんなの顔が赤いな？

明「おかえり」

修・美・愛・ム」／／／

どうしたんだろみんな無口でしかも顔が赤いし・・・

雄「ところで何買ってきたんだ？」

聞くと美波と修也はマグロなどの魚介類でムツツリーニと工藤さんはカメラを買ったらしい・・・

明「二手に分かれて行動したの？」

愛「うんまあ・・・ねー康太君？」

ム「・・・そうだ・・・愛子。」

康太君に愛子？二人ってそんな呼び名だったっけ？

僕がそんなことを考えていると雄二が隣でニヤニヤしていた。

明「ははー、何かあったようだけど聞かないよ・・・で、修也たちはなんかあったの？」

美「・・・えっ！？べ、べ、べ、別に何にも無いわよ。ねー修也！？」

修「・・・えっ、ああうん。そうだよな美波。」

ふとここで僕が思っていたことを雄二が言った。

雄「お前らみんな呼び方が変わってるがどうしたんだ？（ニヤニヤム「・・・・・・・・おれ達のことは言えない・・・でも修也たちのは録画済・・・」

修「なんでだよっ！」

ということで僕たちは修也と美波を紐で縛って録画したビデオを見
ることにした・・・

数分後

雄「こんなことがあったんだな・・・／／／」

秀「修也も大胆じゃの／／／」

修「もう死にたい・・・」

美「やめて」

修也たちの恥ずかしビデオを見終ったので夕飯を作ることにした。
夕食はマグロの刺身とステーキその他いろいろだった。

そして、部屋決めの時間・・・

明「家に空いている部屋は4つと僕の部屋かな。じゃあクジ引いて
」

クジの結果は僕と姫路さんが僕の部屋、雄二と霧島さん、ムッツリ
ーニと工藤さん、修也と美波、
汐と秀吉という結果になった。

これは美味しすぎる展開ではないのか？みんなにとっても僕にとっ
ても・・・

第13問 合宿？（後書き）

なんか微妙な所で終わってすみません。

汐「たしかに微妙ね・・・」

第14問 合宿？（前書き）

雄「俺の人生が・・・」

第14問 合宿？

明久side

くじ引きのあと雄二が男子だけで集まろうといってきたので僕たちは僕の部屋に集合した。

明「みんなを呼び出して何のようなの？雄二？」

雄「おれはこの部屋割りに不満がある。」

秀「わしは問題と思うのじゃが・・・」

ム「・・・・・・・・特に異論は無い。」

明「僕もいいかな」

修「・・・・・・・・」

そりや姫路さんと同じ部屋になれるなんてラッキーだね。

秀吉も汐とだし嫌そうじゃなかったしムツツリーニは工藤さんとかから本望だろ・・・

でも修也は気まずいだろうな・・・

明「修也は？」

修「おれは今のままでもいいと思ってる・・・」

これで反対派は雄二一人になった・・・
あとは・・・

明「霧島さん。」

翔「なに？吉井？」

明「雄二が桐嶋さんと同じ部屋になるのがいやだって言ってるよ。」
翔「雄二・・・どういうこと・・・」

雄「やめろ翔・・・あっ・・・頭が割れる・・・」

よしこれで僕は姫路さんと同じ部屋になれるっ！

明「じゃあみんな自室に戻って。」

ということで僕たちはそれぞれの部屋に戻り寝ることにした・・・

第14問 合宿？（後書き）

短くてすみません

第15問 合宿？（前書き）

この間は短くてすいません・・・これからは一人ずつ（男）のSi
deで行きたいと思います。

汐「ほんとよ。しかも私の出番無かったし・・・」

第15問 合宿？

修也 side

そんなこんなで美波と同じ部屋で寝ることになった・・・
すんげえ気まずい

修「・・・・・・・・・・」

美「・・・・・・・・・・」

修・美「あの・・・」

修「そっちからどうぞ・・・」

美「いやいやそっちから。」

修「・・・・・・・・」

美「・・・・・・・・」

少々の沈黙・・・気まずすぎる・・・

美「じゃあ・・・あのね今日のことで・・・ウチはきにしてないから・・・あれは事故だったわけだし・・・」

修「えっ!? あ、うん。俺も気にしないことにするよ・・・」

そうは言ったもののやっぱり気まずい・・・

事故とはいえキスしちゃったんだし・・・

ここはなんか話を振って気を紛らわそう・・・

修「あ、あの時のキスは初めてだったのか？」

ああああああああああああああああああああ

おれは何を聞いてんだ・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・

これは気まづくなること確実だ――――――

美「う、うん・・・」

修「そか・・・ごめんなお前の初めて奪って・・・」

美「もういいの・・・済んだことだし・・・」

修「でもなんかお詫びとか出来ないかな？」

美「そ、それならウチと付きあってくれない？」

????? エイマナンテイイマシタ?????

美「あのね、ウチ、修也とキスしたじゃない？それからあんたのこ
と見てるうちに好きになって・・・」

修「おれはいいぞ・・・」

美「ほんと？ありがと修也。さて今日はもう寝ましょう。」

なんだかんだで俺と美波は付き合うことになった・・・

第15問 合宿？（後書き）

急展開しません・・・

第16問 合宿？（前書き）

雄二sideです

第16問 合宿？

雄二side

明久のせいで俺は翔子と同じ部屋になってしまったわけだが・・・

翔「・・・・・・・・雄二。」

雄「わかったから離れてくれ・・・」

部屋に來た途端抱きつきっぱなしだ・・・おかしい・・・
いつもならスタンガンでびりびりとするはずなんだが・・・

雄「どうしたんだ？スタンガンは使わないのか？」

翔「・・・・・・・・使って欲しい？」

雄「いや、結構だ。」

翔「・・・・・・・・そう。」

しかしなんでまた・・・

雄「でも今日は何でスタンガン使わないんだ？」

翔「・・・・・・・・吉井がスタンガンはダメっていうから・・・」

明久がか？珍しいな・・・

雄「それでか・・・」

翔「・・・・・・・・うん。変わりに一緒に寝て？」

そんな風に普通にしてる翔子はその・・・なんというか・・・すごく可愛かった・・・

雄「やだ。」

翔「・・・・・・・・でも、布団がひとつしかない・・・」

そのとおり明久のうちには布団が6つある。明久はそれを修・美・ア・秀・汐ペアに2つ、おれ・翔子ペア・ム・愛ペアに1つだ。そして明久はベットで姫路と寝る。明久が好意で配ってくれたらしいがそれは有難迷惑だ・・・

雄「じゃあおれは布団入らない。」

翔「・・・・・・・・風邪を引いちゃう。」

雄「それでもいい。」

翔「・・・・・・・・風引いたら即結婚・・・」

雄「不束者ですがよろしくお願いします・・・」

ということと一緒に寝ることに・・・あーもうこうなったら早く寝よ・・・

んっ？なんか体がむずむずする・・・っていつの間にか翔子が俺の服を脱がしてる・・・

雄「やめろ翔子。」

おれはそういつて翔子の手を体からはがし振り返ると・・・
ほぼ全裸の翔子が寝ていた・・・

雄「なんで全裸なんだよ。」

翔「・・・・・・・・全裸じゃないほぼ全裸・・・」

雄「そんなこたあどーでもいいなんでほぼ全裸なんだよ？」

翔「・・・・・・・・吉井がこれなら雄二もイチコロって・・・」

また明久か・・・

雄「とにかく服を着ろ！」

翔「・・・・・・・・わかった。」

ということとで翔子に着替えを着せておれ達はねた・・・・
大変な目にあつた・・・・

第16問 合宿？（後書き）

次はムツツリーニsodeです

第17問 合宿？（前書き）

ムツツリーニから愛子sideに変えます。

第17問 合宿？

愛子 side

くじ引きの結果ボクと康太君が同じ部屋になっちゃった・・・
しかも布団がひとつだなんて・・・緊張するな・・・

愛「こ、康太君もうそろそろ寝よっか？」

ム「・・・・・・・・・・（コクリ）」

愛「な、ならもう寝よっか・・・」

二人っきりでしかも一緒に布団だなんて・・・

愛「康太君は興奮しないの？」

ム「・・・・・・・・・・お前になんか興味はない。」

そっかそうだよね・・・康太君はボクになんか興奮してくれないんだよね・・・胸も小さいし・・・

ム「・・・・・・・・・・お前に欲情なんてしない（鼻栓をつめているから大丈夫・・・）」

愛「じゃ、じゃあ寝よっか・・・」

ム「わ、わかった・・・」

・
き、緊張するな・・・血で染まったらどうしよう・・・康太君の・・・

愛「じゃ、じゃあお邪魔します。」
ム「・・・・・・・・・・どうぞ。」

ということだ二人で寝ることになった・・・背中を向けて・・・
まあそうだよ・・・ここらで康太君に刺激でも・・・

愛「ねえ康太君・・・」

ム「・・・なんだ？愛子・・・」

愛「ねえねえボクとシない？」

ム「・・・！！！」

なんていつてみたりして・・・でも康太君はボクなんかには振り向
いたりしてくれないよね・・・

ム「・・・ほんとか？」

そういつて康太君はこっちを向いてくれた・・・やったよ

愛「冗談だよ」

ム「・・・そうか・・・」

そういう康太君の顔はとてもさびしそうだった・・・

第17問 合宿？（後書き）

また中途半端に終わってしまった・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6293z/>

バカとテストと恋物語？

2012年1月8日01時50分発行